

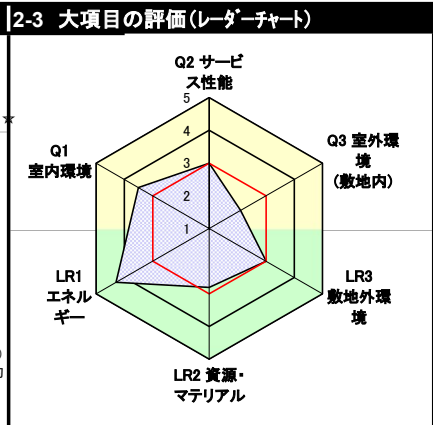
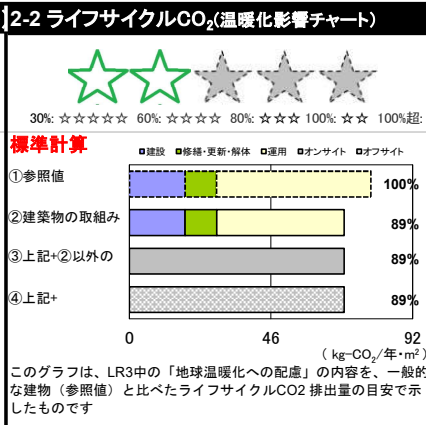
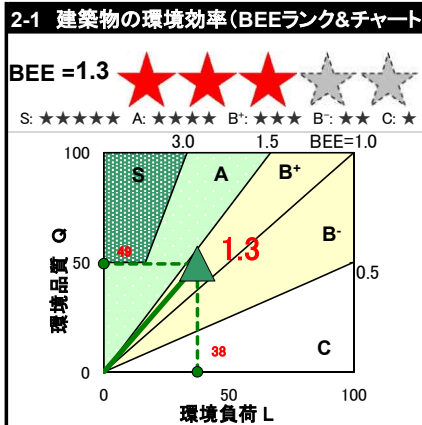
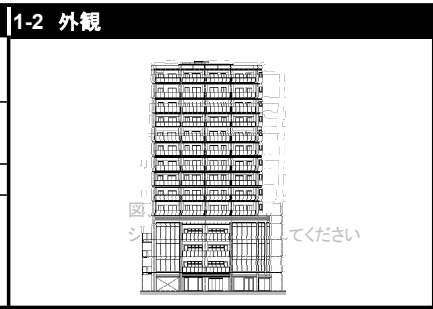
CASBEE®-建築(新築)

評価結果

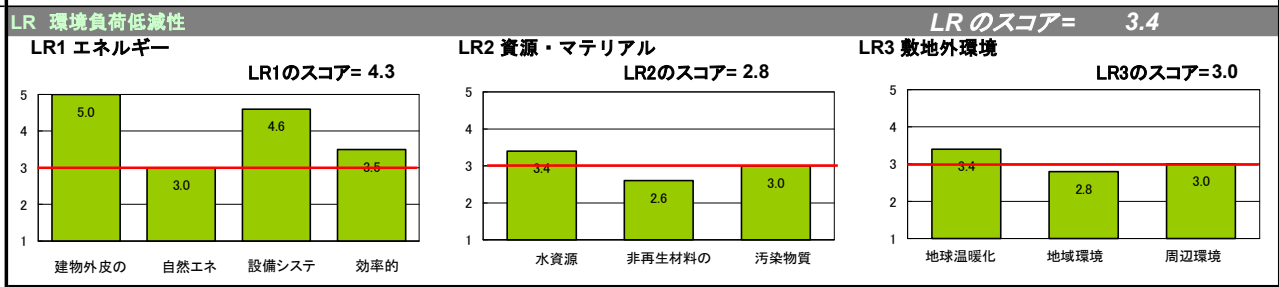
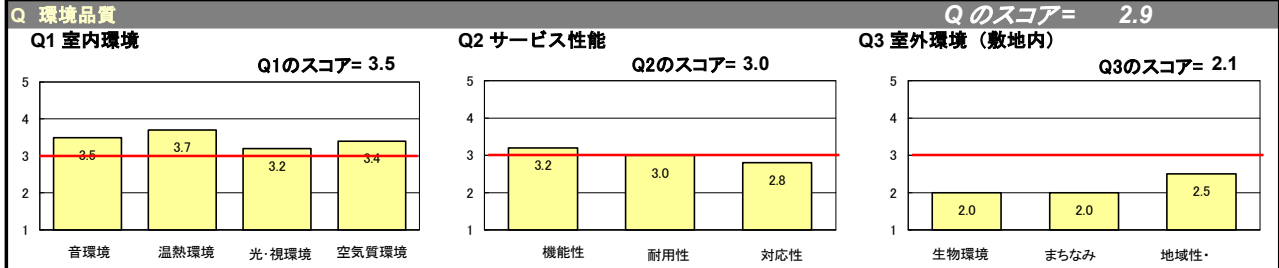
■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要	
建物名称	(仮称)川口市本町3丁目計画
建設地	川口市
用途地域	商業地域、準工業地域、準防火地域
地域区分	6地域
建物用途	事務所、集合住宅
竣工年	2028年2月 予定
敷地面積	1,126 m ²
建築面積	478 m ²
延床面積	4,613 m ²

階数	地上14F、地下1F
構造	RC造
平均居住人員	145 人
年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
評価の段階	実施設計段階評価
評価の実施日	2025年8月19日
作成者	川口土木建築工業株式会社一級建築士事務所
確認日	2025年8月19日
確認者	川口土木建築工業株式会社一級建築士事務所



2-4 中項目の評価(バーチャート)



3 設計上の配慮事項

総合	その他		
日本住宅性能表示基準「5-1断熱等性能等級」における等級4を超える性能とし、室内環境の向上に努めている。省水型機器を採用して水資源に配慮し、LGS工法採用による部材再利用にも取り組んでいる。また、自生種や動植物に配慮した緑化を採用して、豊かな敷地外環境の形成に努めた。	特になし		
Q1 室内環境 日本住宅性能表示基準「5-1断熱等性能等級」における等級4を超える性能とし、住戸部のガラスは複層ガラスを採用している。高屋光率を実現しつつ、グレア制御にも配慮。開口部遮音性能:T-2とし、遮音性も考慮した。	Q2 サービス性能 各住戸にGbitクラスの「ブロードバンド」が利用可能な環境を整備し、サービス性能の向上を目指した。部品・部材の耐用年数に配慮し、給排水の主要な用途上位3種の、2種類以上にC以上を使用し、配管支持方法は耐震クラスAとした。	Q3 室外環境(敷地内) 可能な範囲で外構緑化に努め、樹種選定においては自生種および野生小動物の餌となる植栽の採用を行った。また、我が国や地域の生態系に悪影響を及ぼす外来種の採用を行わず、環境に配慮をした。	
LR1 エネルギー 日本住宅性能表示基準「5-1断熱等性能等級」における等級4を超える性能とし、LED照明、EV充電設備を採用している。	LR2 資源・マテリアル 水資源保護に配慮し、節水コマなどに加えて、省水型機器を選択した。リサイクル材の採用、部材再利用取組み(LGS工法採用)をおこなっている。また、エネルギー消費に関する表示機器を設置している。	LR3 敷地外環境 ライフサイクルCO ₂ 排出率を参照値より抑制し、敷地外環境に配慮した。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版
(仮称)川口市本町3丁目計画

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質										2.9
Q1 室内環境							0.40	-	-	3.5
1 音環境						3.8	0.15	3.4	1.00	3.5
1.1 室内騒音レベル						3.0	0.48	3.0	0.50	
1.2 遮音						4.8	0.48	3.8	0.50	
1 開口部遮音性能		開口部遮音性能:T-2				5.0	0.91	5.0	0.30	
2 界壁遮音性能						3.0	0.09	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		Lr45				-	-	4.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						-	-	3.0	0.20	
1.3 吸音						3.0	0.05	-	-	
2 温熱環境						1.6	0.35	5.0	1.00	3.7
2.1 室温制御						2.3	0.50	5.0	1.00	
1 室温						3.0	0.57	-	-	
2 外皮性能		住)日本住宅性能表示基準「5-1断熱等性能等級」における等級4を超える				1.0	0.35	5.0	1.00	
3 ゾーン別制御性						3.0	0.09	-	-	
2.2 湿度制御						1.0	0.20	-	-	
2.3 空調方式						1.0	0.30	-	-	
3 光・視環境						2.5	0.25	3.7	1.00	3.2
3.1 昼光利用						3.6	0.30	3.4	0.50	
1 昼光率		全体・共用)2.0%≤[昼光率]<2.5、住)2.0%≤[住居昼光率]				4.0	0.60	5.0	0.50	
2 方位別開口						-	-	1.0	0.30	
3 昼光利用設備						3.0	0.40	3.0	0.20	
3.2 グレア対策						1.0	0.30	4.0	0.50	
1 昼光制御		住)カーテンと庇の2種類を組み合わせることでグレアを制御				1.0	1.00	4.0	1.00	
3.3 照度						3.0	0.15	-	-	
3.4 照明制御						3.0	0.25	-	-	
4 空気環境						3.1	0.25	3.6	1.00	3.4
4.1 発生源対策						4.0	0.58	4.0	0.63	
1 化学汚染物質		建築基準法規制対象外となる建築材料をほぼ全面的(床・壁・天井・天井裏の面積の合計の70%以上の面積)に採用				4.0	1.00	4.0	1.00	
4.2 換気						2.1	0.38	3.0	0.38	
1 換気量						3.0	0.46	3.0	0.33	
2 自然換気性能		全体・共用)居室床面積の1/30以上の自然換気有効開口面積				4.0	0.08	3.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮						1.0	0.46	3.0	0.33	
4.3 運用管理						1.0	0.05	-	-	
1 CO ₂ の監視						1.0	1.00	-	-	
2 喫煙の制御						-	-	-	-	
Q2 サービス性能						-	0.30	-	-	3.0
1 機能性						2.3	0.40	3.8	1.00	3.2
1.1 機能性・使いやすさ						2.9	0.40	5.0	0.60	
1 広さ・収納性		全体・共用)9㎡以上/人の執務スペース確保				4.0	0.08	-	-	
2 高度情報通信設備対応		各住戸にGbitクラスの「ロードハンド」が利用可能な環境を整備				1.0	0.08	5.0	1.00	
3 バリアフリー計画						3.0	0.85	-	-	
1.2 心理性・快適性						1.0	0.30	2.0	0.40	
1 広さ感・景観						1.0	0.08	3.0	0.50	
2 リフレッシュスペース						2.0	0.08	-	-	
3 内装計画						1.0	0.85	1.0	0.50	
1.3 維持管理						3.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計						3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保						3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性						3.0	0.30	-	-	3.0
2.1 耐震・免震・制震・制振						3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)						3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能						3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数						3.0	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数						3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						2.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔						3.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔						3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		主要な用途上位3種の、2種類以上にC以上を使用				4.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔						3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性						3.0	0.20	-	-	
1 空調・換気設備						3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備						3.0	0.20	-	-	
3 電気設備						3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法		耐震クラスA				4.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備						2.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性			2.9	0.30	2.8	1.00	2.8
3.1 空間のゆとり			2.2	0.07	2.6	0.50	
1	階高のゆとり		1.0	0.60	3.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ	全体・共用)0.1≦【壁長さ比率】<0.3	4.0	0.40	2.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.07	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			3.0	0.86	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	2.1
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮			2.0	0.40	-	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			2.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.4
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.3
1 建物外皮の熱負荷抑制		レベル4を超える水準の断熱性能を満たす	5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm]: -	4.6	0.50	-	-	4.6
4 効率的運用			3.5	0.20	-	-	3.5
集合住宅以外の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
集合住宅の評価			3.5	1.00	-	-	
4.1	モニタリング	エネルギー消費に関する表示機器を採用	4.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	2.8
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水		節水コマなどに加えて、省水型機器を採用	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	1.00	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		-	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.6	0.60	-	-	2.6
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		-	1.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		LGS工法の採用	4.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.0
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2排出率を参照値より抑制	3.4	0.33	-	-	3.4
2 地域環境への配慮			2.8	0.33	-	-	2.8
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.5	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		1.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		1.0	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.0	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-	
2	昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	

CASBEE埼玉県 重点項目シート





■使用評価ソフトバージョン

CASBEE埼玉県2016年版

1 建物概要

建物名称	(仮称)川口市本町3丁目計画	BEE	1.3	BEEランク	★★★
------	----------------	-----	-----	--------	-----

2 重点項目の評価

ライフサイクルCO2の削減のスコア		緑の保全・創出のスコア			
3.4	+	2.6	=	6.0	
重点項目の各スコアの合計点					
がんばろう 6.0未満 	良い 6.0以上 	非常によい 6.8以上 	すばらしい 8.0以上 		

3 重点項目についての環境配慮概要

(1) ライフサイクルCO2の削減		スコア平均	3.4
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
LR3 敷地外環境対策	1. 地球温暖化への配慮	スコア	3.4
<配慮した内容を記述> ライフサイクルCO2排出率を参照値より抑制し、敷地外環境に配慮した。			
(2) 緑の保全・創出		スコア平均	2.6
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
Q3 室外環境(敷地内)	1. 生物環境の保全と創出	スコア	2.0
Q3 室外環境(敷地内)	3. 2 敷地内温熱環境の向上	スコア	3.0
LR3 敷地外環境	2. 2 温熱環境悪化の改善	スコア	3.0
<配慮した内容を記述> 可能な範囲で外構緑化に努め、樹種選定においては自生種および野生小動物の餌となる植栽の採用を行った。また、我が国や地域の生態系に悪影響を及ぼす外来種の採用を行わず、環境に配慮をした。			

:入力欄